

教科・科目	英語 1
担当者	渥美 行規
評価割合（試験：試験外）	試験：5 試験外：5
時間を通じて教科で培う力	鍛錬（知識・理解） 理解（論理） 探求・叡智（創造）

音と文字を一致させることで、英語学習に必要な基礎力を身につける。
 相手を理解しようとする力や相手の立場を考えて発信する力を身につける。
 学び合いの中で、新たな考えに気づき、自身の意見を深める力を身につける。

ここでの評価が、試験
 外評価と一致します

月	回	単元（学習）目	単元目的（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4	7	ガイダンス Get Ready ○中学英語への橋渡し	・自分について相手にわかってもらえるように、簡単な語句や文などを用いて、好きなものやできることなどについて伝えたり、質問に答えたりしている。	○Phonics ○小学校の復習 【知識】 ・小学校で学んだ表現の意味や働きを理解している。 【技能】 ・小学校で学んだ表現の意味や働きの理解をもとに、好きなものやできることなどについて、聞き取ったり伝え合ったりする技能を身に付けている。 ・小学校で学んだ表現の意味や働きの理解をもとに、クラブの紹介文の概要を読み取る技能を身に付けている。	・講義 ・グループワーク ・プレゼンテーション	・小テスト ・課題提出 ・レポート ・プレゼンテーション ・グループでのアウトプット
5	7	Phonics Program1 ○アルファベット読みができる。 ○自己紹介をすることができる。	・自分について相手にわかってもらえるように、自分のことについて書いたり、質問したりしている。	○自己紹介 ○出身地を伝える <Program1> 【知識】 ・アルファベットの大文字・小文字、つづり字と発音の関係について理解している。 【技能】 ・アルファベットの大文字・小文字、つづり字と発音の関係の理解をもとに、単語を正確に聞いたり書いたりしている。	・講義 ・グループワーク ・プレゼンテーション	・小テスト ・課題提出 ・レポート ・プレゼンテーション ・グループでのアウトプット
6	11	Program 2 ○日常的なことについて書かれた文を理解することができる。	・教室の様子を相手にわかってもらえるように、質問したり、答えたりしている。	○相手の言ったことについて尋ねたり答えたりする 【知識】 ・一般動詞や複数形、whenの意味や働きを理解している。 【技能】 ・一般動詞や複数形、whenの意味や働きの理解をもとに、自分や相手がすることについて伝え合う技能を身に付けている。	・講義 ・グループワーク ・プレゼンテーション	・小テスト ・課題提出 ・レポート ・プレゼンテーション ・グループでのアウトプット

7	8	<p>Program 3</p> <p>○自分ができることについてクラスメイトに発表することができる。</p>	<p>・「夢のロボット」ができることについて相手にわかってもらうために、具体的な説明とともに伝えている</p>	<p>○スピーチを行う</p> <p>【知識】</p> <p>・ canやwhatの意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】</p> <p>・ canやwhatの意味や働きの理解をもとに、できることやできないことについて伝え合う技能を身に付けている</p>	<p>・ 講義</p> <p>・ グループワーク</p> <p>・ プレゼンテーション</p>	<p>・ 小テスト</p> <p>・ 課題提出</p> <p>・ レポート</p> <p>・ プレゼンテーション</p> <p>・ グループでのアウトプット</p>
9	9	<p>Program 4</p> <p>○日本文化について書かれた英文を理解することができる。</p>	<p>・ 食べ物についてのクイズを作るために、簡単な語句や文などを用いて書いている。</p>	<p>○日本文化について理解を深める</p> <p>【知識】</p> <p>・ This is ～.やHe is ～.、whoの意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】</p> <p>・ This is ～.やHe is ～.、whoの意味や働きの理解をもとに、自分と相手以外の人やものについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>・ 講義</p> <p>・ グループワーク</p> <p>・ プレゼンテーション</p>	<p>・ 小テスト</p> <p>・ 課題提出</p> <p>・ レポート</p> <p>・ プレゼンテーション</p> <p>・ グループでのアウトプット</p>
10	12	<p>Program 5</p> <p>○世界で活躍する日本人を紹介することができる。</p>	<p>・ だれを紹介しているか相手にわかってもらえるように、自分の身近な人などについて具体的な説明とともに伝えている。</p>	<p>○映画について意見を伝え合う</p> <p>【知識】</p> <p>・ 三人称・単数・現在の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】</p> <p>・ 三人称・単数・現在の意味や働きの理解をもとに、自分と相手以外の人などについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>・ 講義</p> <p>・ グループワーク</p> <p>・ プレゼンテーション</p>	<p>・ 小テスト</p> <p>・ 課題提出</p> <p>・ レポート</p> <p>・ プレゼンテーション</p> <p>・ グループでのアウトプット</p>
11	10	<p>Program 6</p> <p>○人物紹介の記事を読むことができる。</p>	<p>・ 自分の考えを相手にわかってもらうために、好きな映画やアニメの登場人物について、具体的な理由とともに伝えている。</p>	<p>○海外の生活と日本の生活を比較する</p> <p>【知識】</p> <p>・ himやher、whyの疑問文、Because ～.の意味や働きを理解している。</p> <p>【技能】</p> <p>・ himやher、whyの疑問文、Because ～.の意味や働きの理解をもとに、人やものについて伝えたり、理由をたずねたりする技能を身に付けている。</p>	<p>・ 講義</p> <p>・ グループワーク</p> <p>・ プレゼンテーション</p>	<p>・ 小テスト</p> <p>・ 課題提出</p> <p>・ レポート</p> <p>・ プレゼンテーション</p> <p>・ グループでのアウトプット</p>

12	9	Program 7 ○自分が興味を持った国について紹介することができる。	・飼育したい動物についての自分の考えや気持ちを相手にわかってもらうために、自分が考えた動物園の提案を具体的な理由とともに伝えている。	○スキットを作成する 【知識】 ・ There is [are] ～.やhowの疑問文の意味や働きを理解している。 【技能】 ・ There is [are] ～.やhowの疑問文の意味や働きの理解をもとに、地域にあるものや交通手段について伝え合う技能を身に付けている。	・ 講義 ・ グループワーク ・ プレゼンテーション	・ 小テスト ・ 課題提出 ・ レポート ・ プレゼンテーション ・ グループでのアウトプット
1	5	Program 8 ○旅行記を読み、感想を書くことができる。	・ ライフ配信をしようとしている状況について相手にわかってもらうために、今していることについて説明したり、答えたりしている。	○年末年始の行事について考える 【知識】 ・ 現在進行形の意味や働きを理解している。 【技能】 ・ 現在進行形の意味や働きの理解をもとに、今していることについて伝え合う技能を身に付けている。	・ 講義 ・ グループワーク ・ プレゼンテーション	・ 小テスト ・ 課題提出 ・ レポート ・ プレゼンテーション ・ グループでのアウトプット
2	5	Program 9 ○初見の文章を意味を考えながら読むことができる。	・ 自分が週末にしたことを相手にわかってもらうために、過去にしたことについて書いたり、相手のことを知るために相手が書いた文を読んだりしている。	○紙芝居を行う 【知識】 ・ 一般動詞の過去形の意味や働きを理解している。 【技能】 ・ 一般動詞の過去形の意味や働きの理解をもとに、過去にしたことについて伝え合う技能を身に付けている。	・ 講義 ・ グループワーク ・ プレゼンテーション	・ 小テスト ・ 課題提出 ・ レポート ・ プレゼンテーション ・ グループでのアウトプット
3	3	Program 10 ○相手の立場に立ってやり取りをすることができる。	・ ばばあちゃんの物語の内容をほかの人に伝えるために、簡単な語句や文などを用いて、紙芝居を演じている。	○1年を振り返る 【知識】 ・ be動詞の過去形や過去進行形の意味や働きを理解している。 【技能】 ・ be動詞の過去形や過去進行形の意味や働きの理解をもとに、過去の様子などについて伝え合う技能を身に付けている。	・ 講義 ・ グループワーク ・ プレゼンテーション	・ 小テスト ・ 課題提出 ・ レポート ・ プレゼンテーション ・ グループでのアウトプット

補足

本校の中学1年生の英語授業では、「5ラウンドシステム」を用いた授業を実施しています。

このシステムは、同一の学習内容を複数回（原則5回）繰り返し扱うことで、理解の定着と運用力の向上を図る指導法です。

各ラウンドでは、音読・リスニング・内容理解・表現活動など、異なる観点から段階的に学習を深めていきます。そのため、学習内容は一度で完結するのではなく、繰り返し触れることを前提に構成されています。

この特性上、本シラバスに示す進度や内容はあくまで目安であり、生徒の理解状況や習熟度に応じて柔軟に調整します。

各タームにおいては、既習事項を少なくとも5回以上扱う形で授業を展開し、確実な定着を目指します。